

## 学部学生に対する国内外実地研修

### 名大農学部によるタイ・カンボジアでの海外実地研修のサポート

名古屋大学農学部生物資源科学科3年生・4年生を対象としたタイ・カンボジアにおける海外実地研修を、平成23年11月24日から12月4日に実施しました。4回目の実施となった今年度は、36名の学生（3年生24名、4年生12名）をTA6名、農学部教員7名、農国センター教員3名、事務職員1名にて引率し、総勢53名という過去最大規模の研修となりました。タイではカセサート大学の学生との交流、農村の見学と農家での宿泊を通じた農村体験を、カンボジアでは王立農業大学の大学生とチームを組み、農村・農業・農家の実情や問題点を理解するための調査を実施しました。両国それぞれにおいて、学習内容と成果をパワーポイントにまとめて発表を行うなど、過密なスケジュールでしたが、参加学生が多くを学び、友人を作り、そして視野を広げる充実した研修になりました。ICCAEからは、山内・前多・伊藤の3名が、現地大学との協議や研修内容の向上に関するサポートをしています。（伊藤香純）



カンボジアの農村でのインタビュー調査の様子（写真撮影：名古屋大学生命農学研究科 修士課程 春田つばさ）

### カセサート大学からの学部学生研修

さる2011年10月24日から11月2日の10日間、カセサート大学農学部、獣医学部、工学部、教育学部の4学部より、学部3年生から5年生までの15名を招いて、実地研修の受け入れを行いました。これはカセサート大学との学生交流の一環として、学生支援機構の援助を得て実施されたもので、本農学部の学部3年生、本センターの教職員と生命農学研究科の教職員が受け入れ側として参加しました。本研修は大学における基礎研究から出た成果が、試験場や農協を通して農家に普及し、愛知県における先端的な農業を作り出しているという流れを体験してもらうことで、農学研究の意味を考えさせるという趣旨の下に、農学部各研究室での実験実習、名大農場、農協や農家、試験場などの見学などを実施しました。2日目の愛知県農業総合試験場の見学と歓迎会には、濱口総長も参加しました。最終日には研修の成果に関する発表会と服部研究科長からの修了証書の授与の後、日タイ双方の学生が手作りの料理を披露し、参加者全員が舌鼓を打ち、研修を終えました。（前多敬一郎）



訪問先の附属農場で

## 外部資金によるプロジェクト推進（平成23年度採択案件）

### 科学研究費補助金「インドシナにおける伝統的農産物加工品の高付加価値化に関するビジネスモデルの構築」（2011年11月～2014年3月）



カンボジアにて販売を開始した伝統的な農産物加工品（米蒸留酒）

多くの開発途上国では、農村地域の貧困削減や農家の所得向上に対する効果的な手段として、加工品の生産をはじめとする農産物の高付加価値化が奨励されています。しかし現実には、高付加価値化と生産者の生計向上が実現された事例はわずかであり、開発途上国の社会経済状況における付加価値の創出方法や、生産者の生計向上を導くための課題を見いだすことが急務とされていますが、これらに焦点を当てた研究は殆ど行われていません。

本研究はカンボジアを主な事例として、これまでに科研費や文部科学省国際協力イニシアティブ事業によって実施してきた同国における農産物加工産業振興に関する研究成果や、現在実施しているJICA草の根技術協力事業による「伝統産業の復興による農産物加工技術振興プロジェクト」の成果を活用し、開発途上国における農産物加工品の高付加価値化による生産農家の生計向上を目指したビジネスモデルの構築を目指します。（伊藤香純）